

E. 教育経営における管理・事務 の組織運営についての研究

秋元 照夫 織田 長繁 畑 実
戸 莉 進 加藤 貞夫

I 序 説

この研究は、本校の現場を事例対象とし、教育経営における管理・事務の機能のうち、中核的な三部門をとりあげ実践過程についての実態把握と問題発見を目標として、既に二年余り、観察・調査・分析・討議等を行ってきたが、資料収集が方法に工夫を重ねてもなお不十分であったため、理論的解明と解決方策を具体的に完成するにいたらなかった。しかし、後述するように、諸会諸過程の諸条件に対する配慮と処理に対策

をたて、揭示による連絡・伝達過程における方法・施設を充実・更新し、さらに、校務運営の根拠となる規則・内規・慣行等の記録・文献をすべて収録・分類・整理・保管し、そのカードボックスを2ヶ所に配置して日常の使用に供している。以上の試案の実施は、全教職員の管理・事務に対する知識・能力の水準の引上げと、執務の能率の改善に役立っているにちがいない。(秋元照夫)

II 教育計画における立案・決定過程の分析的研究

—— 職員会議のありかたを中心として —— (第3報)

要 旨 会議についてのアンケートを基にして、小集団による討議(バズ法)とプリント資料に問題点を明示した会議の事例から、会議のありかたの具体的提案におよぶ。委員会の充実、会議時間の明示、必要最少限の議事規則の具体的提案を論述。

1 研究のねらい

毎年というほど、職員会議(本校では教官会議と研究会議をいう)のあり方が問題となる。会議時間が長すぎる割に、発言者が固定されており、全員による活発な会議というものが少い。これは、単に決定過程に問題があるのではなく、すでに立案過程にも、何等かの問題をはらんでいるわけであろう。学校経営の近代化が民主化や合理化である以上、学校における職員会議は学校運営上重要な組織であろう。職員会議がお互いを刺戟し、協力を促進し、学校運営を円滑にするものであるから、職員会議は正しく行なわれなければならない。そのための一つのアプローチは、職員会議に対する意識と態度に関する改善であり、他の一つは職員会議の運営技術の改善であろう。これらは、教育計画の立案と決定過程を通じて分析し、そのあり方についての具体的提案をするのが、本研究のねらいである。本稿では会議についてのアンケート(校内)の分析と、その結果得られたものの試行事例を中心に述べた

い。事例の一つは小集団による討議(バズ法)であり、もう一つはプリント資料を利用した議会の事例である。

2 会議についてのアンケート

本アンケートは、昭和42年5月25日本校の会議改善を目標にして、研究会議で研究的に検討しようという趣旨で実施したものである。32名中、26名の回答を得た(回収率81%)この結果をまとめて、同年6月1日の研究会議においてさらに話し合いを深化した。その結論を中心に述べる。()内の数字は実数

2-1 会議に対する準備はどうあったらよいか。

教育計画の立案過程はその決定過程に大きな前提でもある。一番関心の集ったのは、各分掌部会および各委員会を充実して、問題点を明確にした議題を出すべきであることが強調されていた(12)。次に協議題の予告の問題である。会議室で初めて議題を知らされたのでは、考える余地がない。何等かの方法で、議題予告の途が講ぜられないか、ということである。このために予告責任者を決めるとか、運営委員会での議題だけでも知らせてほしい。という意見(9)。次に議案の調整を本校では運営委員会で行なっているが、できるだけ早く、(一週間前にといい意見もあった。)調整しておくようにという意見(7)、その他協議資料を